

平成18年度実績評価事務事業進行管理表

事務事業名	教育普及事業				財務会計上の位置付け	会計	1	款	10	項	5	目	6	細目	11	細々目	5	19予算額(千円)	3,172	
部等名	教育委員会	課等名	美術博物館		包含する細々目															
政策	2 地育力によるこころ豊かななづくり																			
施策	29 ふるさと意識の醸成																			
実施区分	継続	会計	一般会計	環境調整会議	不要	関連計画 条例等	地域史研究事業													
		事業期間	1	年度～	年度															

【Do】(1)この事務事業は次の目的を達成することを目指します。

目的の記述	対象(人や物、自然資源など)	対象の大きさを表す対象指標名と単位	対象指標の数値				
	・飯田下伊那広域圏の地域住民(一般市民、高校生、小中学生)。	圏域住民数(人)	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度	23年度以前に終了した年度とする	177000	
			177000	177000			
		圏域の児童・生徒の数(人)	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度	15445		
			15445				
	意図(成果は何か、対象をどうかえるか)	成果達成度を表す成果指標名と算定式・単位	成果指標の数値(実績・目標)				
	館の調査研究の成果を市民に還元し、あるいは支援して、自然・文化・芸術への関心と理解を高める。	主催事業あるいは館・学芸員が関わった教育普及活動の数(回) (* プラネタリウム上映・考古博物館は除く)	18目標	350	最終目標		
			18実績	383	19目標	380	↑
			23目標	380	23実績		最終目標達成年度
		主催事業あるいは館・学芸員等が関わった館内外事業の参加者数(人) (* プラネタリウム上映・考古博物館は除く)	18目標	10000	最終目標		
18実績			10817	19目標	10800	↑	
23目標			11000	23実績		最終目標達成年度	

(2)意図を達成するために以下のことを取り組みます。

手段の記述	事業の全体概要(補足説明)	具体的活動内容(やり方、手順、詳細)	活動量を表す名称・単位	活動量の値
	美術博物館の調査研究活動の中で蓄積された研究結果や情報、展覧会などで展示される作品や資料について、その特性や魅力を講座・講演会などで紹介する。また、子ども向けの講座を開講し、伊那谷の自然と文化への学習意欲をたかめる。そのほか、館外の地域・学校・諸団体の事業にも積極的に関わる。	18年度の実績 1. 館主催の事業 一般向けの講座(美博特別講座・自然講座・美博文化講座・講演会・見学会・研究活動報告会・伊那谷自然史発表会など)、子供向けの講座(科学工作教室・子ども美術学校・宇宙をのぞこう・親子天文教室・夏休み自然相談教室など)、第1回美博まつり。 2. 館主催以外に館ないしは学芸員が館内外で参加・支援した事業(地域や団体の事業、学校の授業・学会発表など)。 3. 副教材「伊那谷の里山観察ガイド」の刊行。	主催講座の開催数(回) / 参加者(人) 関わった他講座等の数(回) / 参加者(人)	152 / 4133 231 / 6684
手段の記述		19年度計画 1. 館主催の事業 一般向けの講座(美博特別講座・自然講座・美博文化講座・講演会・見学会・研究活動報告会・伊那谷自然史発表会など)、子供向けの講座(科学工作教室・子ども美術学校・宇宙をのぞこう・親子天文教室・夏休み自然相談教室など)、第1回美博まつり。 2. 館主催以外に館ないしは学芸員が館内外で参加・支援した事業(地域や団体の事業、学校の授業・学会発表など)。 3. 副教材ないしは報告書の刊行。	主催講座の開催数(回) / 参加者(人) 関わった他講座等の数(回) / 参加者(人)	150 / 4200 230 / 6700

<金額の単位:千円>		18決算額(見込)	19予算額(当初)
事業費	特定財源		
	国庫支出金		
	県支出金		
	起債		
	その他		
	一般財源	3,172	3,172
	事業費計(A)	3,172	3,172
人件費	正規職員所要時間	18年度 700	19年度 700
	臨時職員等所要時間	570	570
	人件費計(B)	3,116	3,116
	トータルコストA+B	6,288	6,288

特定財源内訳や補足事項	
-------------	--

(3)この事業目的の達成は、次の上位(施策や主体の役割)目的の達成に結びつきます。

目的の記述	結果 この事務事業の施策(基本事業)の目的	上位成果指標(施策又はムトス指標)と単位	上位成果指標の数値			
	・地域を知る ・地域を誇りに思う	飯田の自然・歴史・文化を学んでいる市民の数(延べ人数)	現状値	18016	19実績	
			20実績		21実績	
			22実績		23目標	19800
	ふるさと(飯田)を誇りに思っている市民の割合	ふるさと(飯田)を誇りに思っている市民の割合	現状値	75.3	19実績	
			20実績		21実績	
22実績				23目標	85	

この事業を開始したきっかけ	事業を取り巻く状況の変化	事業に対する市民や議会の意見
平成元年の美術博物館開館時から行っている。館に蓄積された学術的成果を市民に還元すること、あるいは地域の学習を支援することは、社会教育施設としての博物館が最も大切にすべき役割の一つである。	館の調査研究の蓄積や地域全体の学習意欲の高まりに応じて、館主催の講座数が増大している。また学芸員・専門研究員が企画・支援あるいは招集される機会が増大しており、伊那谷自然友の会や伊那民俗学研究所・地研連(伊研協)のように当館を主会場として活動する研究団体も増えている。	美博の講座はテーマが地域に関わり深く、参加しやすいとの感想が参加者から寄せられた。

【See】18年度の振り返り

目的 妥当性 評価	この事業の意図の達成が、結果(上位目的)に結びついていますか？	(評価) 結びつく (その理由) 地域の自然・文化・芸術を知ることにより、地域への愛着が深まり、郷土の将来像を考えられる人材が育つ。	有効性 評価	成果をさらに向上させる余地はありますか？	(評価) 余地がある (その理由) モノを主体とする博物館の特性を活かし、時機をとらえたテーマを設定するなど、市民のニーズを的確に捉えた事業展開を、さらに工夫する。また、地域や学校・研究団体などとの連携を強める。
	対象の見直し、拡大、縮小の必要性はありますか？	(評価) 必要性がない (その理由) 対象者の主体を地域住民とするところに、地域博物館・美術館としての意義を持っている。		廃止・休止した場合の影響はありますか？	(評価) 影響あり (その理由) 伊那谷の美術、人文、自然についての収集保管、調査研究した成果を、市民に還元する機会がなくなり、地育力を持続的に高めて行くことが困難になる。また市民研究団体の活動の場が失われる。
	意図の見直しの必要性はありますか？	(評価) 必要性がない (その理由) 独自の調査研究の成果を還元することにより、郷土の特性をより深く理解することができる。		他に類似事業はありますか。また統合の可能性はありますか(市以外の取組も含む)？	(評価) 統合不可能 (類似事業名、理由) 館主催事業は、公民館講座や歴史研究所などでも似た事業はあるが、本館は博物館・美術館の特性(モノの展示・調査研究など)を活かした独自の事業を展開している。
	市が関与する必要性はありますか(市が税金を投入すべき事業ですか)？	(評価) 必要ある (その理由) 地域の特性についての理解を広めることは、文化経済自立都市を担う人材を育て、市の将来を支える基礎となる。将来展望に立って市が関与して展開すべきである。		効率性 評価	成果を下げずに、事業費や人件費の削減は可能ですか？
			公平性 評価	受益者は誰ですか？また、負担の是非、程度は妥当ですか？	(評価) 妥当である (受益者とその理由) 子どもから大人までの市民。公共の社会教育施設として、受講料などの負担を減らし学習の機会を提供する必要がある。

【Plan】改革改善

今後の事業の方向性	何を、いつまでにどうするのかの改革改善案
<input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的見直し <input type="checkbox"/> 別事業に統合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<p>平成19年度は特別陳列「飯田大火60年」や特別展「絵画の中の物語」などの展覧会にあわせた講座・講演会・映画会などを企画する。特に大火展では伊那史学会と連携して展示とともに普及事業を実施する。美術博物館研究活動報告会は、資料見学を盛り込んで美術館・博物館事業の特色を強める。昨年、好評であった美博まつりは、反省点を生かして継続する。</p>
上記の改革改善案を実施する際、想定される課題とその克服方法	市民へのきめ細かな広報活動について工夫が必要である。類似の事業を行っている関係機関との連携・調整を密にしてゆくことも必要。

【補足事項環境側面】

(1) 環境影響評価の必要性判断	必要性がない	(2) 必要性な場合の実施事由
(3) どのような点に配慮し事業に取り組みましたか？		

【指摘事項】

施策マネジメント会議	
施策評価会議	
第5次基本構想基本計画推進委員会	